

人や、或は中學校女學校などで世界地理を教授する際に、經濟上の事柄を附説したいといふやうな人のため、こよなき良參考書を得たこと、信ずる強て缺點を云ふならば何分薄い本であるから所々に隔靴搔痒の感がないではない、従つて他日大經濟的地理書の發行を期待するのは豈予一人のみならんやである、妄評多罪(定價壹圓五拾錢)

序に云ふ石橋教授の商業學校向きの教科書として三訂實業教科地理教科書日本及外國の部がある、同じく富山房の發行であるが、併せて經濟地理學の參考本として推奨する。(藤田)

### 質 疑 應 答

(問) 本邦地質圖の手頃なるもの承りたし

(新潟、M・T 生)

(答) 一)地質調査所編

百萬分一地質圖(東京神田東陽堂發行約六圓)

(二)同

二百萬分一地質圖(東京、丸善發行定價五圓)  
右は共に震災に罹り現今は手に入ること難かるべし古本屋に就て搜す必要あり、神田裏神保町長門屋書店に聞合はずべし、又四十萬分一地質圖は目下地質調査所にて新版發行計畫中この事なり。(チカムラ)

(問) 氷山の接近し來る時には海水の溫度が俄に昇る理由如何といふことが小川先生の中地理學の間の中に見えますが、御説明を願ひたい(地球一讀者)

(答) 氷山は淡水の氷結したものであるから攝氏〇度であるが、氷山を流してゐる所の兩極地方の海水の溫度は鹹水なるが爲めに(一)二度位まで過冷 undercool されて氷結しないのである。それ故氷山が來ると暖かい物が流れて來ることになつて水溫が俄かに高まるのである。航海者は「ハインズ」測微寒暖計を船に附けて、其の急に昇るのを見て氷山の接近するのを知り、其の危険を脱することが出来る。是は教科書には見えぬが氷山の處(海水)に入るべきである。(下田)

(問) 三十一回中等教員地理科檢定試験問題中  
璞石閣と云ふ地名あり、いかなる所なるか教示  
を乞ふ。(岡山、松枝生)

(答) 臺東の中央縱谷(秀姑巒溪流域)の殆んど  
中部に位し北回歸線を去ること南に十分ばかり  
東徑自二十一度十五分に位す、蕃語にて厥をバ  
バコと云ふこの邊古へは厥の生せし平原なりし  
故にババコと云ひしに漢音にて璞石閣ボクチオ  
コクと譯したる也、清の同治の初年閩人陶氏臺  
西の集々方面より山を越て來り土人と貿易を始  
め、ついで移民したるに始まり同治の末年には  
四十餘家の漢族住めりしが明治四十年頃には人  
口千三百二十人に達せり近年に至り臺灣は漢字  
を日本讀に改名して、この地を玉里タマザトと  
改稱せり、花蓮港廳所在地なり花蓮港より鐵道  
の便あり臺東よりも輕便鐵道ありしが昨十二年  
に臺東開拓會社より買收し今日にては玉里、臺  
東間にも官線全通せり、この沿線には吉野豊田  
林田等聞くも床しき内地移民部落の點在するも  
臺洛にては文化最も後れ、産業の稱すべきもの

とては一製糖業のあるのみ、庄の附近に玉里溫  
泉あり東南一里、海岸山脈紅蘆溪の右岸に位し  
幽邃閑雅、浴室旅宿の設備ありといふ。(藤田)

(問) コ、ヤシ及其の分布について教示を乞ふ  
(岡山、松枝生)

(答) 棕櫚科やし屬(Coconut)熱帶各地に産す  
る常綠喬木にして葉は大形の羽狀複葉にして樹  
幹の頂に叢生す、花は單性にして雌花雄花同様な  
り果實は核果にして三稜を有し長さ八九寸徑四  
五寸あり、果皮の内圍にある層は堅牢にしてコ  
ツプに代用すべく胚乳の乾かしたるをコプラと  
稱し油を採るべく胚乳の内部に乳様の汁液あり  
これを土人の重要な食物とす其分布は阿弗利  
加赤道直下ギニア海岸の多雨地及東岸モザンビ  
ク附近、南米アマゾン川及オリノコ流域の平原  
より、中米バナマの北に及び、印度にてはデカ  
ン半島の尖端より、セイロン島マレイ半島及附  
近の島嶼、蘭領印度支那の南部海岸をはじめ、  
フィリッピン以南、ポリネシアミクロネシア諸  
島に、分布せり。(藤田)

(問) Schneider氏の火山分類法に就き例を我國に取り説明して下さい。(鳥取、徳本)

(答) 本間不二男氏がこの事について、其内に記載されますから右に對する答は姑く御待下さる。(編輯)

(問) 北海道の地質岩石を研究するに就いての参考書なり地質圖類は有りませんか。せうか。(北海道、延原生)

(答) 北海道一般に亘つた地質岩石の報文には次の如きものがあります。

1. Lyman, B. C.-A general report on the geology of Yesso. 1877
2. 來曼著 北海道地質總論 明治十一年  
これは前者の日本語であります。
3. 神保小虎述 北海道地質略論 明治二十三年
4. 神保小虎著 北海道地質報文 明治二十四年  
百五十萬分ノ一地質圖がついてをります。
5. Jimbo, K.-Explanatory text to the geological map of Hokkaido. 1890  
前記地質圖の説明書です。

6. Jimbo, K.-General geological sketch of Hokkaido, with special reference to the petrography. 1892.

7. 石川貞治、横山壯次郎著北海道廳地質調査鑛物調査報文 明治二十七年  
百五十萬分ノ一地質及鑛産圖がついてをります。

以上の外マンローやライマンの局部的の報文が數多あります。

近頃になりましてからの北海道の地質調査報文には農商務省の鑛物調査報告(第一號明治四十四年—第三十四號大正十一年)がありまして盡く北海道の鑛床地質調査の結果がのせてあります。地質圖では左のものが新しくて最もよいものです。

大井上義近編 北海道地質圖(六十萬分ノ一)  
札幌市南一條西三丁目六、富貴堂書房發行定價四圓  
大正七年

上記の外震災豫防調査會報告中の北海道の火山の調査報文や札幌鑛務署で出した夕張及空知炭田の調査報文があり、猶地學雜誌には北海道の地質岩石につき記事論文が散在してをります(中村)